



学校関係者向け キッズニアの学習活用レジューメ

□ 問い合わせ先 □

キッズニア東京 営業部

TEL:03-3536-8401 / FAX:03-3533-2652

□ 問い合わせ先 □

キッズニア甲子園 営業部

TEL:00-0000-0000 / FAX:00-0000-0000

キッズニアのホームページより、ダウンロードしていただけます。

<http://www.kidzania.jp/grand/school/resume/>

1. 事前事後学習プログラムについて

＜キッズニアが目指すもの＞

キッズニアは現実そっくりの街の中で、社会の様々な仕事を体験することができる場所です。児童のみなさんが、自分で考えて仕事を選び、その体験を通して働くことのやりがいや意義に気づくことができる施設です。

キッズニアが目指すもの

キッズニアでは、約 60 種類のパビリオン(仕事をしてお給料をもらったり、お給料を使ってサービスを受けたりする、職場やお店などの建物)で、90 種類以上の仕事や習い事を体験することができます。これらの体験を通して、以下のような気づきを得られるしかけを盛り込んでいます。

- ・仕事をやりとげた達成感
- ・仕事を通して人に感謝される喜び
- ・働く上での意識や心構え
- ・街の中でそれぞれの仕事が相互に関連していること
- ・それまで意識していなかった仕事の存在や役割
- ・お給料をもらい、そのお金を使うという経済活動の基本

キッズニアが目指すことは、児童のみなさんが「将来目指す職業を決めること」ではありません。仕事をもつ役割や楽しさを感じ、意識していなかった仕事にも目を向けることを通して、児童のみなさん一人一人にとって、自分の将来を深く考えるきっかけとなることを目指しています。

Life Role(人生の役割)を学ぶ

キッズニアの活動は「ロールプレイ」を基本としています。

来場した子ども達は、街の中で働き手・消費者・グループのリーダー等の様々な役割を演じ、社会活動を体験します。

このような、「ロールプレイ」を通じた学びは、アメリカでは、ライフロール(Life Role)という考え方をベースとした「キャリア教育」に反映されています。

日本では、フリーターやニートの増加を受けた政策課題の解決策としてキャリア教育が提唱されてきていますが、キャリア教育発祥の地であるアメリカでは、キャリア教育によって子ども達は仕事だけではない、人生の役割について学びます。保護者としての役割、子どもとしての役割、姉や兄としての役割、隣人としての役割、消費者としての役割など、人生において、人々は多様な顔(役割)を持っています。

キッズニアでは、消費者としての役割、働き手としての役割、年長者としての役割、分業することによって発生する個人の仕事の役割など様々な役割を体験することによって、子ども達が本来持っている力を発揮しながら、多様な役割を少しずつ学ぶことができます。

遊びによって発達する力

遊びというのは人間としての自然な活動であり、生活に結びついたものです。特に初期段階の成長においては、遊びを通じて、協力や協働、社会的行動の能力を身につけて発達させていきます。

近年、日本においても一人遊びが増加してきていますが、キッズニアではグループの遊びを推進しています。子ども達は初めて出会った他者と付き合うことができるだけでなく、遊びの中で、それぞれが違った役割を体験することができます。

学校における事前・事後学習の意味

学校における事前・事後学習は、キッズニアでの経験を一過性のイベントにしないこと、日常の学校や家庭での生活場面とキッズニアでの擬似的な社会活動とを接続する意味を持ちます。

「事前学習」としては、

- ・日常の働き（お手伝いや係り活動）の振り返り
- ・知っている仕事の振り返り
- ・活動目標を事前に立てること

「事後学習」としては、

- ・体験の発表と学級内での共有
- ・キッズニアの体験と学校における学習とのつながりを考える
- ・キッズニアの体験と日常生活とのつながりを考える

ということを学ぶことによって、キッズニアでの体験はより効果的なものとなります。

このような事前事後学習のプログラムを、ご提案させていただきます。キッズニアへの訪問をきっかけに「働くことを考える」ことを目的とした内容となっています。事前学習の内容や、事後学習の発表形式はいくつかの例を示しています。ご参考にご覧頂き、先生方の授業計画にお役立て頂ければと思います。

また参考資料として「キッズニア東京のパビリオン・仕事一覧」と「教科とキッズニア体験のつながり」を添付致しました。こちらを参考に、先生方の授業計画の中にキッズニアをご活用ください。

なおこれらのプログラムは、あくまでも一例です。

先生方が計画された事前・事後の授業がありましたら、ぜひキッズニア宛にお知らせください。

2. キッズニアの特徴と活用例

キッズニアのアクティビティは、小学校高学年の児童のみなさんにとっても手応えのある、リアリティのある内容となっています。しかし、3歳～15歳という幅広い年齢のお子さんが同じ場で体験しているため、小学校高学年にとっては幼いイメージがある・小さい子どもと一緒にだと照れが出てしまう、などのご指摘やご心配を頂くこともあります。

しかし、このようなご心配事項は、事前に児童のみなさんへ一言言葉をかけて頂くことで、逆に「学ぶ」ための材料へと変えることができます。

以下に、先生方からお問い合わせ頂く主な「懸念事項」と、それに対しての児童のみなさんの意識づけを変えるための声かけ例をご紹介します。授業プラン案と合わせて、ご参考になさってください。

キッズニアの特徴	お問い合わせ頂く懸念事項	声かけ例
3～15歳の子どもが来場	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳と同じ体験をするということは内容が幼すぎるのではないかと ・施設としての対象年齢は、もっと低いのではないかと 	<p>「仕事で、言われた通りに取り組むだけでなく“なぜ”そんな風に仕事をするのか、“どうすれば”お客様に喜んでもらえるのか 職業の持つ目的を考えながら仕事をしましょう」</p> <p>(背景) キッズニアのアクティビティは、実際の仕事の持つ「設定」や「目的」を大切にしています。そのため、それぞれの年齢で理解できる範囲で、仕事の意義や目的を意識しながら取り組んで頂くことができます。外から見た体験内容は同じでも、実際は、個々人の理解に応じた深さで、目的や取り組み方法が変わっているのです。</p> <p>【例：作品を作る内容のアクティビティの場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○未就学児 →自分なりの方法で「完成させる」 ○小学校低学年 →「テーマに合わせて」作る ○小学校高学年～中学生 →仕事の目的を考えて、「目的に合う内容を工夫して」作る。 <p>特に、小学校高学年以上のお子さんには、仕事の「目的」「どうすれば喜んでもらえるか」「仕事によってどんな影響を与えるか」を事前に意識することで、活動への取り組み姿勢が大きく変わります。</p>

<p>異年齢集団による体験を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもと一緒に生徒が恥ずかしさを感じる。 ・小さい子どもをいじめないか心配 	<p>「チームワークが必要な仕事では、どんなことに気をつければ良いでしょうか。特にチームの中で助けが必要なメンバーがいた場合にはどうすれば良いか考えて仕事をしてみましょう。」</p> <p>(背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズニアのアクティビティは、ほとんどが、チームで体験します。異年齢集団の中で、お互いに助け合う活動を通して、子どもたちはチームの中での役割意識を持ちます。特に、高年齢の来場者は、低年齢の子どもへの手助けや気遣いを通じた成長が期待できます。
<p>仕事のユニフォームを着用しリアリティのある設定を実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・照れが出て、その職業に成りきれないのではないか？ 	<p>① 仕事をするということは、その仕事の役割に成り切ることです。それぞれの仕事らしい言葉遣いや振舞い方、そして、ユニフォームによって、その仕事の人になりきりましょう。」</p> <p>(背景)</p> <p>就業体験を考える時に、大事なポイントの1つに「成り切る」という要素があります。職場の体験とは、業務「内容」だけの体験でなく「〇〇屋」「〇〇士」・・・という肩書きを持った、いつもと違う自分の体験でもあります。</p> <p>②「仕事のユニフォームには、1つ1つに意味があります。実際にユニフォームを着て仕事をして、どんな意味があるのかを考えてみましょう。」</p> <p>(背景)</p> <p>ユニフォーム(制服)の持つ意味は、その仕事の社会的な目的と大きく関わってきます。清潔を守る(白衣やマスク)・安全(ヘルメットや防弾チョッキ)などの機能的な理由のほかに、お客様に信頼される(警察や宅配センター)・仲間意識を高めるなど、精神的理由もあります。ユニフォームの持つ意味を考えることで、個々の仕事にとって大切なことや、お客様からどのように見られているのかなどについて、違った視点から気づくことができます。</p>
<p>20～30分でプログラムが完結</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に終わってしまい手ごたえがないのでは？ ・仕事が簡単にできるものだと誤解しないか？ 	<p>「自分が体験した仕事の前後には、どんな仕事があるか考えてみましょう。」</p> <p>(背景)</p> <p>キッズニアの体験は、分かりやすい部分をクローズアップしていますが、リアルな仕事があるのになっています。仕事の前後にどんな人や仕事があるのかを考えることで業務の関連や仕事の広がりに気づくことができます。</p>

3. 事前学習プログラム 授業進行資料

「働く」ことを 考えよう」

<p>授業のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」「働く」とは何かを考え、自分なりの仕事観・職業観を持つ。 ・自分が将来就きたい仕事について調べ、将来へのイメージを広げる。 ・それぞれの仕事を持つ意義や役割に気付く。
<p>授業計画</p>	<p>【事前授業・・・2時間】</p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」とは何かを考え、自分なりのイメージを持って、キッズニア体験の準備をする。 ・自分が将来就きたい仕事について調べ、その仕事について詳しく知る。 <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」とは何か、イメージを広げる。 ・具体的な「仕事」について詳しく調べ、「仕事」の理解を深める。 (例1) 身近な人の仕事についてインタビューしよう。 (例2) 自分が将来なりたい仕事について調べよう。(内容・役割・働く人の想いなど) ・キッズニアでの活動計画を立てる。 <p>【キッズニア体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズニア内で、自分が将来就きたい仕事や、将来就きたい仕事と似た仕事・関係する仕事を体験する。 ・自分が事前に調べた内容を思い出しながら、仕事をする時に何を大切にしているかやりがいいは何かを考えながら、仕事をする。 ・自分の将来に関連する仕事以外は、自由に選んで仕事を体験する。

授業の進め方

活動内容	児童へのはたらきかけ
<p>【事前学習】</p> <p><1 時間目></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「仕事」について考える〔使用例:WS①〕 ・「仕事」と聞いて浮かぶイメージを話し合う。 ・こども達から浮かんだ言葉・アイディア・イメージを板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「仕事」とは、どのようなものだろう？ －どのようなイメージがある？ 楽しい・嬉しい・辛い・苦しい・・・？ －何のために、誰のためにするものだと思う？
<p><宿題></p> <p>具体的な「仕事」について詳しく調べ、「仕事」に対してのイメージを広げる。</p>	
<p>(例 1) 身近な人の仕事について、インタビューしよう。 〔使用例:WS②〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家族や身近な人に、仕事についてインタビューしてみよう。 －どのような仕事をしているのか。 －仕事をしている時に大切にしていることや大変なことは何か？ －この仕事をしていて、良かったと思うのはどんな時だろう？
<p>(例 2) 自分が将来つきたい仕事について調べよう。 〔使用例:WS③〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が将来つきたい仕事について調べよう。 －くわしい仕事の内容を知ろう。 －その職業に就くためにはどうすればいい？ －仕事をしていて、楽しいことや、やりがいを感じることは何だろう？
<p><2 時間目></p> <ul style="list-style-type: none"> ●調べた内容を発表する。 (小グループ内での発表など) ●キッズニアの説明 ・こどものための「街」。 ・自分で仕事を選んで働く。 ・知っている仕事や、今まで知らなかった仕事など、90 種類以上の仕事があるので、色々な仕事を体験する。 ・仕事をする時には、仕事を教えてくれる人が仕事をする時に大切にしていることなども説明してくれるので、しっかり話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が調べてきたインタビューの内容を、お互いに発表しよう。 －大人の人達は、どうして働いているのだろうか？ －仕事をしていて良かったと思うことや、やりがいを感じることに、どのようなことがあったらだろうか？

<体験当日までの宿題>

- キッズニアでの活動の計画を立てる。
〔使用例:WS④〕

- キッズニアで、どの仕事をするか、考えよう。
 - －自分が将来就きたい仕事と同じ仕事がキッズニアにもある場合は、同じ仕事を体験してみる。
 - －自分が将来就きたい仕事と同じ仕事が体験できない場合は、似た仕事や、関連する仕事を選んで働く。
 - －それ以外は、体験する内容を自由に選んでよい。
- 仕事の時に、知りたいことや、気をつけようと思うことを、書いておこう。

【キッズニア体験】

仕事をする時に、何を大切にしているか、仕事のやりがいは何かを考えながらキッズニア内で、仕事を体験する。
〔使用例:WS⑤〕

- 仕事の体験内容や、自分が気をつけたこと発見したことなどを、忘れないようにメモしておこう。